



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

6月号—No.313

2021.5.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【苺色(いちごいろ)】熟した苺のような赤紫色。

和名の苺色に対し、英名のストロベリーはもっと鮮やかな濃いピンク色。江戸時代、野イチゴしかなかった日本にオランダ人がもたらしたオランダイチゴが、今日、果物として食べられているイチゴのルーツ。明治時代に入って栽培されるようになり、第二次世界大戦後に産業化された。イチゴの赤はアントシアニンという色素によるものだが、今では白イチゴも開発されているぐらいだから、苺色も時と共に変わっていくかもしれない。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和3年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会報告

財団からのお知らせ..... 4

令和4年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集／令和3年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集時期について／「公共ホール求人情報」
「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法／令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」全体研修会報告／「公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年」のご案内

今月の情報..... 6

地域通信／オンラインを活用した取り組み

制作基礎知識シリーズ Vol.48..... 10

感染症を見据えた危機管理

今月のレポート..... 12

石川県金沢市 いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2021

●令和3年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会

2年ぶりの全体研修会をリモートで開催

令和3年度
公共ホール
音楽活性化事業
全体研修会

2021年4月19日～21日



公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)では、事業実施館の担当者やコーディネーター、登録アーティストが一堂に会する全体研修会を実施しています。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となりましたが、今年度は4月19日～21日にリモートによる全体研修会を実施しました。

今回は事業実施14団体の担当者はすべてリモートで参加し、レクチャーはオンライン配信、トップホールを会場にした登録アーティスト6組によるプレゼンテーションは一般客席を50席に限定するとともに、担当者に向けてライブ配信しました。初めての試みとなりましたが、事態の収束が見えづらい状況でどうすれば音楽を届けられるかをみんなで考える貴重な機会となりました。

●全国をオンラインで繋いだ研修

これまで初日の1コマ目を実施していたコミュニケーション・ワークショップも今回はZoomによるリモートに変更。地域創造会議室にスクリーンを設置し、関係者10名とスクリーンに映し出された14人の受講生を相手に、セ

レノグラフィカによるワークショップが行われました。一人でもできるワークを続けた後、最後に一人ひとりの波の動きを順番に繋ぎ、全員でひとつの波になる「バーチャル・ウェーブ」が出来ると、オンラインとは思えない一体感が生まれました。

当初は地域創造から講師がレクチャーする予定でしたが、移動を最小限にするため講師もリモートでの参加に変更。事例紹介では2019年9月におんかつを実施した氷見市の後藤和泉さんが出演しました。氷見市民会館を休館し、新たな文化施設の整備を進めている氷見市では2017年から子どもたちへのアウトリーチを展開。おんかつは、これまで生のクラシック音楽を聴く機会の乏しかった大人(高齢者、市役所職員、商工会議所職員など)を対象に実施されました。「これによって新たな人脈ができ、アウトリーチの楽しさへの理解が深まった」と後藤さん。また、「おんかつから始まるホールと地域の未来」と題したレクチャーでは、ニッセイ基礎研究所の大澤寅雄さんが地域創造の調査結果を引用しておんかつの子どもたちへの効果について解説しました。

写真

左上: 登録アーティストによるプレゼンテーション。新野将之さん(打楽器)

右上: 同じく登録アーティストの高橋ドレミ&實川風ピアノデュオ(ピアノデュオ)

左下: セレノグラフィカによるダンスワークショップ

右下: リモートによる登録アーティストと参加団体の質疑応答

●2020-2022年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 齊藤一也(ピアノ)
- 石上真由子(ヴァイオリン)
- 梅津碧(ソプラノ)
- 竹多倫子(ソプラノ)
- 新野将之(打楽器)
- 高橋ドレミ&實川風ピアノデュオ(ピアノデュオ)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 森永・山之内
Tel. 03-5573-4069

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

グループに分かれて行う企画会議はZoomのブレイクアウトルームという機能を用い、コーディネーターとサブコーディネーターも加わって行われました。昨年度の実施を1年延期したため担当者が変更になったところもあり、コロナ禍でアクティビティ先が見つからないのではといった不安も聞かれましたが、経験豊かなコーディネーターに相談できるおんかつならではの体制が安心材料となっていました。

●演奏家の個性溢れる公開プレゼンテーション

2日目には昨年度行う予定だった1年目のプレゼンテーションが中止になり初めてのお目見えとなった登録アーティスト6組のプレゼンテーションが行われました。

トップバッターは、15歳で打楽器と出会ったという新野将之さんです。「小中学生のときは内気だったけど、吹奏楽部で打楽器と出会い、いろいろなことが前向きにとらえられるようになった。打楽器にはメロディーやハーモニーはないけど、リズムだけでこれだけ豊かな音が出ることを体験してほしい。限界を突破したところに見えてくるものがあると思っています」と話した後、ジャンベ演奏に始まり、珍しいスネアドラムのソロ、数学などを駆使して人間を超えたところで作曲しているというクセナキスの『ルボン』を披露しました。

今回の登録アーティストにはユニークなキャリアをもつ梅津碧さんと、実力派の竹多倫子さんという2人のソプラノ歌手が登録されています。梅津さんは青山学院大学で文学を学んでいた学生時代に郷里の公立ホールで聴いたソプラノ歌手の声に衝撃を受け、弟子入りしたという行動派。「どんなところにきっかけがあるかわからない。私の歌をきっかけに歌を始めてもらえるようになれば」と、人生を変えたオペラ『ゼッキンゲンのトランペット吹き』の一曲を披露しました。また、コロナ禍の新しい試みとして全国各地の人にオンラインで歌唱指導をしているという竹多さんは、「私が音楽に支えられてきたように、音楽の力で心に灯りを灯し

てもらいたいという気持ちで歌っている。オペラ歌手を通すことで、歌は歌うための歌ではなく、聴くための歌になる」と話していました。

また、即興演奏も行うピアニストの齊藤一也さんは、「ピアノという楽器は身近にあるのにそのポテンシャルが伝わっていない」と話した後、鐘をテーマにした2曲を弾きくらべて響きの違いを実演。『子犬のワルツ』と『ネコ踏んじやった』をコラボしたオリジナル『ショパンの子犬のワルツによる即興曲～ネコ好きのための～』を披露するなど、エスプリ感のあるプレゼンとなりました。高橋ドレミ&實川風ピアノデュオは、高音のファースト奏者と低音のセカンド奏者がいる連弾の可能性について存分にアピールしていました。弦楽オーケストラ曲をピアノデュオにアレンジした『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』第1楽章、ファーストとセカンドがさまざまな掛け合う『ハンガリー舞曲』など、4手20指ならではの魅力が満載でした。

今回、唯一の弦楽器登録アーティストであるヴァイオリンの石上真由子さんは、梅津さんと同じくユニークなキャリアの持ち主です。5歳からヴァイオリンを習っていましたが、音楽大学には通わず、医師を志して医師免許を取得。「音楽祭をつくること」を夢見て、音楽活動に専念しているヴァイオリニストです。「ヴァイオリンの格好良さといろいろな楽器としての可能性を伝えたい。そして自分の人生を通じて、夢はいくつあってもいいという人間としてのロールモデルを見せたい」と話した後、思いを込めてシューマンの『予言の鳥』を演奏しました。

今年度の事業は秋以降に実施の予定です。コロナ禍でのアウトリーチなど、さまざまな課題もありますが、詳細は当財団ホームページやレターで発表しますので、ぜひ興味をもっていただければと思います。

●令和3年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体一覧(全14団体)

岩手県大槌町
秋田県大館市
秋田県横手市
秋田県羽後町
福島県津美里町
埼玉県川越市
東京都町田市
山梨県北杜市
山梨県韮崎市
和歌山県日高川町
鳥取県境港市
山口県岩国市
福岡県中間市
大分県宇佐市

●令和3年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会プログラム

- ◎4月19日(月) 地域創造 会議室
 - オリエンテーション
 - 「ワークショップ」(セレノグラフィカ(隅地菜歩+阿比留修一))
 - 「おんかつを知るVol.1～基礎編～」(小澤櫻作)
 - 「おんかつを知るVol.2～実務編～」(地域創造)
 - 「おんかつを知るVol.3～事例紹介編～」
I.令和元年度事例(後藤和泉[氷見市]、山本若子)/II.演奏家事例(喜名雅、丹羽徹、花田和加子)/III.事業担当者の役割とは(仕田佳経)
- ◎4月20日(火) 地域創造 会議室/トッパンホール
 - 「おんかつから始まるホールと地域の未来」(大澤寅雄)
 - 「フィードバック～これまでのゼミを振り返って～」[プレゼンテーションの聴き方]
 - 2020-2022年度登録アーティストによる公開プレゼンテーション(演奏順)
新野将之(打楽器)
梅津碧(ソプラノ)
齊藤一也(ピアノ)
石上真由子(ヴァイオリン)
高橋ドレミ&實川風ピアノデュオ(ピアノデュオ)
竹多倫子(ソプラノ)
 - 質疑応答・交流
(登録アーティスト、コーディネーター一同)
- ◎4月21日(水) 地域創造 会議室
 - 「グループ別企画検討」
 - 「企画発表」
 - 「フィードバック」
 - 閉講式

財団からのお知らせ

●令和4年度リージョナルシアター事業

◎派遣アーティスト

●多田淳之介

(演出家/東京デスロック主宰)

●田上豊

(劇作家・演出家/田上バル主宰)

●有門正太郎

(演出家・俳優/有門正太郎プレゼンツ主宰)

●福田修志

(劇作家・演出家/F's Company代表)

●ごまのはえ

(劇作家・演出家・俳優/ニットキャップシアター代表)

◎問い合わせ

芸術環境部 栗林・田中

Tel. 03-5573-4124

※実施要綱・申込書は当財団ホームページ内からダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/theater/02.html#boshu>

●「地域創造大賞(総務大臣賞)」に関する問い合わせ

総務部 三田

Tel. 03-5573-4184

taishou@jafra.or.jp

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」に関する問い合わせ

芸術環境部 人材育成担当

jinzai@jafra.or.jp

●令和4年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集

演出家や俳優(以下、派遣アーティスト)を公共ホールに最大3回派遣し、公共ホールとともに演劇の手法を使ったワークショップを企画・実施する「リージョナルシアター事業」の参加団体を募集します。

この事業では、主に学校等の施設を訪れて子ども等を対象にワークショップを行うアウトリーチや、ホール等で多様な参加者に応じたワークショップを実施します。地域のニーズやホールの目指す方向性に合わせてプログラムを自由に企画することができ、演劇の表現者と共にワークショップを行うことで、地域の課題に取り組むことが可能になります。また、公共ホール等の企画・制作能力の向上、ホールの活性化も期待できます。

これまでの事業では、小中学校の授業内でのアウトリーチや、公募した市民と共に街歩きやホール探検をして地域・ホールの魅力を再発見するワークショップ、行政職員や教員の研修として行うワークショップなど、多岐にわたるプログラムを実施しています。

各地域での事業実施前には参加団体と派遣アーティストによる研修会を実施します。過去の事例紹介やワークショップ体験、事業実

施に向けた打ち合わせを行いながら、各地域の課題や展望を共有していきます。

演劇の手法を使った新しい取り組みへの挑戦や、派遣アーティストの新しい視点を活用したいというホールの皆様のご応募をお待ちしています。詳細は当財団ホームページをご覧ください。

<https://www.jafra.or.jp/project/theater/02.html>

募集締切:2021年8月10日(火)必着

●令和3年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集時期について

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としており、平成16年度から令和2年度までの17年間で129施設が受賞しました。

実施要領・応募書については、5月下旬に当財団のホームページに掲載する予定です。ご応募をお待ちしています。

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 1 求人情報登録フォーム、研修会/シンポジウム開催情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元に届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2~3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、入力フォームの末尾にあるNo.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、再度修正情報をご登録ください。セキュリティの都合上、すべての情報を再入力する必要があります。ご了承ください。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」全体研修会報告

公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業は、地域においてクラシック音楽を身近なものとするため、都道府県等と連携してコンサートとアクティビティを実施することを通じて、企画から公演に至る過程において、企画・制作能力を高めるための研修機会を提供し、地域の公共ホールスタッフの育成、地域文化の活性化を図ることを目的としています。

令和元・2年度に一般財団法人長野県文化振興事業団を主催団体とし、飯山市、安曇野市、筑北村、伊那市、松川村、茅野市の参加を得て長野セッションを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度に実施を予定していた研修事業・市町村公演事業および総括公演プログラム事業を令和3年度にすべて延期。しかしながら参加予定だったすべての市村が事業実施に向けて再調整くださり、新たなスタートとして、4月28日に全体研修会が行われました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。

全体研修会ではまず、山本チーフコーディネーターと楠瀬コーディネーターから、アウトリーチがアーティストや子どもたちにもたらしてくれるもの、アウトリーチの効果を高めるための環境整

備、プログラム作りで大切なことなどを、事例を交えて講義いただきました。

そして、市町村個別打合せでは、市村担当者、アーティスト、コーディネーター、アシスタントコーディネーターから成る各チームに分かれ、地域の特色や特産物、アウトリーチ先となる小中学校の様子、児童・生徒たちの傾向などを情報交換する時間となり、どのような地域交流プログラムがより効果的なのか、熱心な話し合いが行われました。

長野県内各地で市町村公演事業が終了した後、2022年2月26日には、キッセイ文化ホールでアーティスト全員による総括公演(ガラコンサート)を行う予定です。今年度の公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業についてご期待ください。



市町村個別打ち合せの様子

●「公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年」のご案内



芸術文化領域への理解を深めていただくとともに、制作実務についての入門書として活用していただけるよう、本誌で連載した「制作基礎知識」シリーズを中心にまとめたハンドブックとして2004年に発行した「公立文化施設職員のための制作基礎知識」に、今回増補版として新たに書き下ろした原稿および連載を追加し(右記参照)、「公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年」として発行しました。日頃の実務で疑問に感じていたこと、詳細に理解できていなかったことの解説にお役立てください。

◎公立ホール・劇場の歩み

2019年度「地域の公立文化施設実態調査」全体概要・設置主体・専用ホール/コラム「若年層の文化行動とメディア接触」

◎音楽・演劇・ダンス事業の基礎知識

日本における戦後クラシック音楽事業の歩み/コラム「クラシック音楽事業の最新動向」/邦楽の分類と流派による違い/純邦楽演奏会の企画・制作/コラム

「現代演劇の最新動向」/伝統芸能の基礎知識(歌舞伎・能・狂言・文楽・落語の業界構造)/日本におけるコミュニティダンスの現状/コラム「アウトリーチ事例(音楽・演劇・現代ダンス)」

◎ホール・劇場業務の基礎知識

プロデューサー・制作スタッフの仕事/予算の立て方(パッケージ事業・プロデュース事業・劇場の年間予算)/コラム「地域振興におけるクラウドファンディングの可能性」/オンライン配信の基礎/チケット営業と票券/舞台美術・舞台監督の仕事/運営主体が留保すべき発災時の備え/劇場・音楽堂における感染症を見据えた危機管理/舞台芸術に関連する著作権法の例外規定/文化政策における法律知識その後/コラム「文化政策を振り返る」/年表「戦後の社会経済情勢の変化と文化政策・文化行政、公立文化施設の変遷」

◎付録

用語(解説)/制作スタッフの業務チェックリスト/創作進行表ほか

入手方法はこちらからご確認ください。

<https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/application/>



●公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に関する問い合わせ
芸術環境部 崎山・河野
Tel. 03-5573-4185

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介します。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 藤原・梅村

●2021年8月号情報締切
6月3日(木)

●2021年8月号掲載対象情報
2021年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

北海道・東北

●北海道帯広市

北海道立帯広美術館

〒080-0846 帯広市緑ヶ丘2
(緑ヶ丘公園内)
Tel. 0155-22-6963 福地大輔
<http://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/obj/>

帯広美術館 開館30周年記念 手島圭三郎 絵本原画展 森と いのちの交響詩

北海道紋別市出身の木版画家、手島圭三郎の絵本原画展。約40年間出版を続けてきた北海道の野生動物を題材にした絵本を中心に、手島の木版画世界を展覧する。動物たちのリアルな生態と、静寂感漂う大自然の神秘を、繊細かつ力強い木版表現で構成した絵本は国内外で高く評価されている。会期中は高校生以下の観覧料が無料。「キッズ・ツアー」(6月5日)など子ども向けイベントも実施。

[日程] 4月17日～6月27日

[会場] 北海道立帯広美術館



手島圭三郎 絵本「しまふくろうのみずうみ」より(1982年)

●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館

〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

まちと記憶と映画館～1960年の記憶編～

隔年で開催している昭和の映画館のような、文化的な団らんと交流の場を設けるプログラム「まちと記憶と映画館」。今回は1960(昭和35)年のチリ地震津波に焦点を当て、地元の体験者から集めた当時の写真資料をエピソードとともに展示。東日本大震災から10年を迎えた今年、写真展を通して未来へと語り継ぎたい記憶や伝えたい思いを分かちあうとともに、人々の防災意識に繋げていく。

[日程] 4月29日～6月13日

[会場] 塩竈市杉村惇美術館



津波到来後のJR仙石線本塩釜駅前(昭和35年5月) 撮影:馬場惣寿 フィルム修復:和賀耐互

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三
崎1-6

Tel. 0246-22-5800 長野隆人
<https://iwaki-alios.jp/>

おでかけアリオス@夜のいわき市立美術館 大塚直哉(チェンバロ) J.S.バッハ「ゴルトベルク変奏曲」のタベ

日本を代表するチェンバロ奏者で、いわき市にルーツのある大塚直哉が、いわき市立美術館に持ち込まれたアリオス所蔵の16f弦付チェンバロで「ゴルトベルク変奏曲」を演奏。このイメージに合わせて、美術館コレクションの中から李禹煥の《点より》を特別展示するなど、双方の魅力を最大限に掛け合わせた交流プログラム。前日には多数のカメラを用いて演奏を収録し、後日公式YouTubeで公開される。

ンの中から李禹煥の《点より》を特別展示するなど、双方の魅力を最大限に掛け合わせた交流プログラム。前日には多数のカメラを用いて演奏を収録し、後日公式YouTubeで公開される。

[日程] 6月5日

[会場] いわき市立美術館 1階ロビー

関東

●さいたま市

彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1

Tel. 048-858-5500 荻原文子

<https://www.saf.or.jp/arhall/>

コンドルズ埼玉公演2021新作

『Free as a Bird』

学ラン姿でダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを行うコンドルズによる、2006年より続く埼玉公演の新作。ビートルズのナンバー『Free as a Bird』タイトルで、舞台機構を活かしたダイナミックな演出で、ユーモア溢れる明るい舞台を展開する。主宰の近藤良平は劇場の次期芸術監督に就任。あらゆる人が交わってアートを創造・発信する劇場の新たな展開も注目される。

[日程] 6月5日、6日

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県旭市

千葉県東総文化会館

〒289-2521 旭市ハ666

Tel. 0479-64-2001 八木郁帆

<https://www.cbs.or.jp/toso/>

知って!感じて!ホールのピアノ～ピアノの魅力を発見しよう～

旭市出身で日本の若手を代表するピアニスト・實川風を招き、平成25年度から開催している事業。会館で保有する「世界3大ピアノ」と言われるうちの2つ、スタインウェイとベーゼンドルファーを使用し、公開レッスンおよびミニコンサートを実施する。

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

演奏を通して、それぞれのピアノの音色や響きの違いを体感することができる。

[日程]6月12日

[会場]千葉県東総文化会館

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団

〒182-0026 調布市小島町2-47-1

Tel. 042-481-7611 阿部珠子

<https://www.chofumusicfestival.com/>

調布国際音楽祭2021

市民と共につくり上げる都市型地域の音楽祭。音楽が町中に溢れ、人々の心を潤し、地域の活性化を促進することを目的に実施している。調布市の地域資源でもあるバッハ・コレギウム・ジャパンや桐朋学園大学と協力し、コンサートホールだけではなく深大寺など市内各所を舞台にさまざまなコンサートが繰り広げられる。

[日程]6月27日～7月4日

[会場]調布市グリーンホール、調布市文化会館たづくり ほか



調布国際音楽祭フェスティバル・オーケストラ ©Hikaru Hoshi

●東京都町田市

町田市立国際版画美術館

〒194-0013 町田市原町田4-28-1

Tel. 042-726-0860 高野詩織

<http://hanga-museum.jp/>

#映える風景を探して

古代ローマから世紀末パリまで「映える風景」をテーマに、16～19世紀のヨーロッパで制作された版画や挿絵本、油彩画、写真を展示。ブリューゲルから印象

派までの、西洋風景画を代表する作家たちの名作を一望できるほか、銅版画からリトグラフなど、版画技法の変遷を見ることができるのも町田市立国際版画美術館ならではの。館周辺の風景をハッシュタグ「#映える風景を探して」でシェアすると入場料が安くなるSNS割引を実施。

[日程]4月24日～6月27日

[会場]町田市立国際版画美術館

●神奈川県海老名市

海老名市文化会館

〒243-0438 海老名市めぐみ町6-1

Tel. 046-232-3231 河井奈津子

<https://www.ebican.jp/>

海老名市市制施行50周年記念「山崎瑠奈サクソフォンリサイタル」

若手芸術家への支援を通じて、海老名市内における芸術文化の普及を行うことを目的とした「海老名市文化会館育成事業」として開催するコンサート。山崎瑠奈は、フランスへの留学期間を除き、中学生の頃から当会館の練習室で日々研鑽を積んでおり、国内外のコンクールで優秀な成績を修めている。今回はサクソフォンと親和性の高いバッハやドビュッシー作品を中心に、パリのエスプリ薫るプログラムをお届けする。

[日程]6月5日

[会場]海老名市文化会館

●神奈川県葉山町

神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1

Tel. 046-875-2800 初山昌夫

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

開館70周年記念 空間の中のフォルム—アルベルト・ジャコメッティから桑山忠明まで

神奈川県立近代美術館は1951年の開館以来、同時代の彫刻・

立体作品を積極的に収集してきた。本展ではその中から、アルベルト・ジャコメッティや最上壽之、マルタ・パン、砂澤ビッキ、桑山忠明など代表的な彫刻家の収蔵品を約90点セレクト。それぞれの彫刻家が追及した空間の中の多様なフォルムを、「形態」「再生」「木魂」「空間」など9つのテーマを通して映し出す。

[日程]4月24日～9月5日

[会場]神奈川県立近代美術館 葉山



砂澤ビッキ「北の王と王妃」(1987年/木(胡桃、セン)/神奈川県立近代美術館蔵) Photo by Tadasu Yamamoto

北陸・中部

●新潟市

新潟市芸術文化振興財団

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel. 025-224-7000 坂内佳子

<https://www.ryutopia.or.jp/>

ストラヴィンスキー没後50年

Noism0 + Noism1 + Noism2

『春の祭典』

りゅーとぴあ専属舞踊団Noism Company Niigataの全カンパニーで『春の祭典』を表現する。元々昨年公演予定だったが、感染症対策として規模を縮小してプレビュー公演という形で公開、ストラヴィンスキー没後50年の今年に本公演を行うこととなった。同時に、集団創作の意味を問い直す『FratresⅢ』と芸術選奨文部科学大臣賞受賞作『夏の名残のバラ』の再演、Noism初の映像舞踊作品『BOLERO 2020』の上映も行われる。

[日程]7月2日～4日

[会場]りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

●富山県南砺市・射水市

南砺市福野文化創造センター

〒939-1576 南砺市やかた100

Tel. 0763-22-1125 野村斗萌

<http://nantohelios.jp/>

川村亘平斎とあだち麗三郎の影絵と音楽

全国各地に残る民話や伝統文化を影絵作品として再生させている影絵師・川村亘平斎と、その唯一無二の影絵を音楽で彩る現代音楽家・あだち麗三郎。2019年にヘリオス公演のために書き下ろした作品が大好評だったのを受け、今回は南砺市と射水市でフィールドワークを行い、両市を舞台にした2つの新しい物語を創作する。作品はそれぞれの市で上演され、両作品を見るとより楽しめる仕掛けになっている。

[日程・会場]南砺市福野文化創造センター「ヘリオス」:6月12日/射水市大門総合会館:6月13日

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館(金沢芸術創造財団)

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 山下樹里

<https://www.kanazawa21.jp/>

特別展 日常のあわい

7組11名の日本人作家が参加する、「日常」テーマにした特別展。意識しないと見過ごしてしまう生活のなかのささやかな創造行為に着目した作品や、突然の喪失や災害に向き合う心の機微を捉えた作品、そして形を変えて続いていく日常を露わにする作品を介して、日常と非日常のあわいにある「現在」を浮かび上がらせる。

[日程]4月29日～9月26日

[会場]金沢21世紀美術館

●静岡市

SPAC-静岡県舞台芸術センター
〒422-8003 静岡市駿河区平
沢100-1
Tel. 054-208-4008 西村藍
https://spac.or.jp/

静岡県文化プログラム
SPAC『忠臣蔵2021』

市民が芸術の真髄を直に体感
できる機会を創出するとともに、
アマチュア劇団をはじめとする
演劇活動の活性化を目指した
演劇公演。作品は平田オリザが
1999年に宮城聡(現・SPAC芸
術総監督)に書き下ろした群集
劇。今回は10歳代から80歳代
まで幅広い世代の市民参加者
42名とSPAC俳優の総勢50名
が出演。モニターでの英語字幕
を行い、多様な観客が楽しめる
質の高い日本現代演劇ともなっ
ている。またコロナ対策のため、
出演者全員が衣裳としてマスク
を着けて演じる。

[日程]6月5日、6日
[会場]静岡県舞台芸術公園野
外劇場「有度」

●静岡市

静岡市東海道広重美術館
〒421-3103 静岡市清水区由
比297-1
Tel. 054-375-4454 山口拓海
https://tokaido-hiroshige.jp/

名所江戸百景～広重の残した
最後の江戸風景～

名所絵師として有名な歌川広重
が最晩年に手掛けた、集大成と
もいえる『名所江戸百景』。一人
の絵師が描いた浮世絵版画の
シリーズとしては最大級の枚数
である、約120点に及ぶ作品を、
描かれた場所のエリアごとに、
三つの会期に分けて紹介。6月1
日からはPart3として「江戸中心
の名所」を描いた39点を展示し、
併せて広重がそれ以前に手掛
けた江戸の名所絵を紹介し、見
比べを行う。

[日程]6月1日～7月4日
[会場]静岡市東海道広重美術館



歌川広重《名所江戸百景 浅草金龍山》
(静岡市東海道広重美術館蔵)

●愛知県東海市

東海市芸術劇場
〒477-0031 東海市大田町下
浜田137
Tel. 0562-38-7030 酒井悠吾
https://www.tokai-arts.jp/

早乙女 フーバー 陽子
ヴァイオリン・リサイタル

東海市出身でウィーン在住の
ヴァイオリニスト・早乙女フー
バー陽子のコンサート。ヴィヴァ
ルディやサラサーテ、モーツァル
トなどの名曲を演奏する。一部
の演奏には東海市芸術劇場を
拠点として活動を行う、小学
生から高校生までのジュニアオー
ケストラ「東海市子どものオーケ
ストラ」も参加予定。

[日程]5月30日
[会場]東海市芸術劇場

近畿

●滋賀県守山市

守山市民ホール
〒524-0051 守山市三宅町125
Tel. 077-583-2532 皆越実紀
http://moriyamabuntai.com/luciole/

第10回ルシオール アート キッズ
フェスティバル

毎年音楽を中心とした多彩なプ
ログラムで行われるフェスティバ
ル。今年は市制施行50周年記
念事業として、市内全域5会場
で開催。守山市民ホール・大ホー

ルで開催される「祝祭コンサ
ート」では、三ツ橋敬子(指揮)とイ
リーナ・メジュエワ(ピアノ)の
初共演で、ベートーヴェンのピア
ノ協奏曲第5番『皇帝』を演奏す
る。また、びわ湖ホール声楽アン
サンブルが喜歌劇『こうもり』より
「シャンパンの歌」などで市政施
行のお祝いに彩りを添える。

[日程]5月30日
[会場]守山市民ホールほか

●大阪府東大阪市

東大阪市文化創造館
〒577-0034 東大阪市御厨南
2-3-4
Tel. 06-4307-5772 若菜純一
https://higashiosaka.hall-info.jp/

大阪交響楽団「0歳からのオー
ケストラコンサート」

大阪交響楽団によるファミリー
向けコンサート。東大阪市では
新型コロナウイルス感染拡大の
影響により2020年に2回開催を
中止したため、今回が3度目の
開催。授乳室やベビーカー置き
場を用意しており、公演時間は
約90分。今回は松本宗利音を
指揮者に迎え、チャイコフスキー
『くるみ割り人形』より「花のワル
ツ」などが披露される。

[日程]7月3日
[会場]東大阪市文化創造館
Dream House 大ホール

●兵庫県西宮市

西宮市大谷記念美術館
〒662-0952 西宮市中浜町4-38
Tel. 0798-33-0164 作花麻帆
http://otanimuseum.jp

石内都展 見える見えない、写
真のゆくえ

2014年に写真の世界で偉大な
業績を残した者に授与される
ハッセルブラッド国際写真賞
を受賞した日本を代表する写
真家・石内都の個展。初期作
の『連夜の街』(ヴィンテージプ
リント)や代表作の『ひろしま』、

『Frida by Ishiuchi』、『Frida
Love and Pain』に加え、これ
まで発表機会の少なかった薔
薇やサボテンを撮ったシリ
ーズ、国内では初公開の『Moving
Away』、新作『The Drowned』を
展示する。

[日程]4月3日～7月25日
[会場]西宮市大谷記念美術館

中国・四国

●岡山市

岡山県立美術館
〒700-0814 岡山市北区天神
町8-48
Tel. 086-225-4800 中村麻里子
https://okayama-kenbi.info/

熊本県立美術館所蔵 今西コレ
クション 肉筆浮世絵の世界 ア
ナザーワールド発見!

肉筆浮世絵とは、絵師が絵筆を
とって描く一点限りの浮世絵の
こと。多数の複製を安価で提供
する版画が庶民間に広く流行し
たのに対し、肉筆画は希少性が
高く富裕層に愛され、異なる進
化を遂げた。本展では、熊本県
立美術館が所蔵する故今西菊松
氏の肉筆浮世絵コレクションか
ら名品約130点を展示し、版画
ではなく肉筆画という浮世絵の
“アナザーワールド”を紹介する。

[日程]5月21日～7月4日
[会場]岡山県立美術館

●香川県高松市

香川県立ミュージアム
〒760-0030 高松市玉藻町5-5
Tel. 087-822-0247 一柳友子
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmu
seum/kmuseum/index.html

空間に生きる画家 猪熊弦一郎
—民主主義の生活空間と造形
の試み

一般には抽象画家として親しま
れている猪熊弦一郎について、
建築・デザイン分野での創作に
も注目した特別展。所蔵する猪
熊作品だけではなく、丸亀市猪

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

熊弦一郎現代美術館などと協力し、三越百貨店の包装紙《華ひらく》など約300点の作品を展示することで、猪熊の新たな一面を発見できる。また、県内の建築物を模型や映像で紹介し、地域住民が直接足を運んで地域に根差した芸術に興味を持てる機会を提供する。

[日程] 4月17日～6月6日
[会場] 香川県立ミュージアム



猪熊弦一郎 三越包装紙《華ひらく》
(1950年) 撮影:高橋章

九州・沖縄

●熊本市

熊本市現代美術館
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3
Tel. 096-278-7500 佐々木玄太郎
<https://www.camk.jp/>

段々降りてゆく 九州の地に根を張る7組の表現者

九州各地の現代アーティストの活動状況調査(各地の文化関係者へのオンラインでの聞き取りや作家訪問)をもとに、九州を拠点に環境に根差した問題意識をもって主体的な活動を行う同時代の表現者7組を紹介する展覧会。首都圏とは異なる九州の環境と状況に即した芸術の在り方や生き方を地元住民と共に考えられる機会を提供する。まちなかでもワークショップやサテラ



加藤笑平会場ビュー
Photo: Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

イト展示を計画。
[日程] 3月27日～6月13日
[会場] 熊本市現代美術館

●大分県大分市

大分県芸術文化スポーツ振興財団
〒870-0029 大分市高砂町2-33
Tel. 097-533-4004 八坂千景
<http://www.emo.or.jp>

ワンコインリレーコンサートvol.1 ドニゼッティ作曲(全1幕/イタリア語上演・日本語字幕つき) オペラ「リタ」

障がいの有無にかかわらず、子どもも大人も楽しめる鑑賞支援つきコンサート。大分県ゆかりの嘉日真木子(ソプラノ)らがピアノ伴奏で歌い演じるオペラ「リタ」をお届けする。字幕や手話通訳、要約筆記などの鑑賞支援と併せて、「なぜ客席が暗くなるのか」「どうして大きな音になるのか」などの鑑賞ルールやマナーを学べるプログラムも用意されている。

[日程] 5月29日
[会場] iichiko総合文化センター

●鹿児島県鹿児島市

鹿児島県文化振興財団
〒892-0816 鹿児島市山下町5-3
Tel. 099-223-4221 木佐貫稔
<https://www.houzanhall.com/>

(公財)鹿児島県文化振興財団 アーティストバンク登録アーティスト紹介公演「若葉Festival」

鹿児島県ゆかりの若手芸術家を支援する「アーティストバンク若手芸術家支援プロジェクト」は、平成19年度から始動し、現在129組が在籍(登録期間は3年間)。厳選なるオーディションを経て、今年度は15組の若手芸術家が選ばれた。今年で4回目の若葉Festivalは、国内外での活躍が期待される若手芸術家

のお披露目の場となっている。
[日程] 6月5日
[会場] 宝山ホール

●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel. 098-941-8200 亀海史明
<https://okimu.jp/>

石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。

海外でも広く紹介され、精力的な制作活動続ける写真家・石川真生。彼女は沖縄を拠点に活動を続け、沖縄をめぐる人物を中心に人々に密着した作品を撮影してきた。本展では、撮影当時の迫力あるヴィンテージプリント200点余りを含め、初期から最新作まで総数約500点を紹介。この規模の展示は今回が初めてで、作家の軌跡を色濃く感じられる展示となっている。

[日程] 3月5日～6月6日
[会場] 沖縄県立博物館・美術館

オンラインを活用した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地で広がるオンラインを活用した取り組みをご紹介します。

※実施施設の北から順に掲載

●兵庫県西宮市

おうちでアミティ

新型コロナウイルス感染症流行の中、少しでも文化芸術を市民に届けるため昨年5月から始まったオンラインプロジェクト。地域創造のダン活をきっかけに繋がったコンテンポラリーダンスのセレノグラフィカとピアニストの田村緑により新しく結成された〈セレムータ〉によるオリジナルコラボレーション動画や、

視聴者からリクエスト曲を募って行われたピアニスト・長富彩のコンサートなど、多彩なコンテンツをYouTubeで配信しており、海外からも反響があるなど広がりを見せている。

[URL]<https://nishi-bunka.or.jp/ouchi/>
[問い合わせ] 西宮市文化振興財団 Tel. 0798-33-3146

●福岡県宗像市

宗像ユリックス公式YouTube

イベントホールや図書館、プラネタリウムなどのある本館に、プールやジムを備えたアクアドーム、屋外施設とさまざまな施設を併設する宗像ユリックスが開設したYouTubeチャンネル。2020年12月にダンス公演を行った長井江里奈主宰の「山猫団」が出演する新型コロナウイルス感染症対策啓発動画をはじめ、ダンス公演やロビーコンサート動画、自宅のできるトレーニング動画、星空講座、本の紹介など、異なるセクションから集めたさまざまなジャンルの動画を配信することで、自宅楽しみながら、宗像ユリックスの取り組みを知ることのできる内容となっている。

[URL]<https://yurix.munakata.com/youtube.html>

[問い合わせ] 宗像ユリックス
Tel. 0940-37-1311

夏休み子ども企画／フェスティバル情報 求む！

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画／フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4183
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り: 6月3日(木)

新型コロナウイルスを想定した劇場・音楽堂の感染症対策

制作基礎知識シリーズ Vol.48

感染症を見据えた危機管理

講師 草加叔也
(岡山芸術創造劇場 劇場長/
空間創造研究所代表)

2020年1月に新型コロナウイルスの国内感染が初めて確認され、この年の年末までに感染者数累計232,495人、死者数累計3,459人を数えた。もちろん、そのための対策効果が期待されるのは、早期のワクチン接種に他ならない。ただし、ワクチン接種が進むまでの蔓延を防止し、医療効果を活かしていくためには予防対策が重要になる。その予防対策では、いわゆる三密(密閉、密集、密接)を避けることが重要とされる。近代の劇場・音楽堂では、静音性を高めることや舞台と客席の親密性を演出するなど快適な三密を実現するための施設整備が行われてきた。そのため「密閉」は空調機械設備の性能、また「密集」「密接」については、運用対策で一定程度の対策が可能になると考えられる。

残念ながら未だ終息後を語る状況にはないが、現時点における新型コロナウイルスを想定した感染症対策をまとめた。また、直接的な感染症対策だけでなく、その影響によって懸念される劇場経営上の危機管理課題についても示したので併せて検討いただきたい。

●劇場施設維持

劇場・音楽堂施設の維持管理対策の前提条件となるのが建物の基本性能である。特に前述の密閉(換気の悪い空間)を避けるためには換気性能が重要になる。建築基準法では、劇場・音楽堂等(特殊建築物)の換気量が $20\text{m}^3/\text{h}\cdot\text{人}$ となることが求められている。また、興行場法では、観覧場床面積 400m^2 以上の場合には第一種換気設備(給気および排気ともに送風機設置)が求められており、未満の場合でも最も好ましい換気設備として示されている。同法での換気量は、今日の空気調和設備では一般的に備えている機能であるが、温湿度調整装置を備えている場合、観覧場床面積 1m^2 当たり 25m^3 (温湿度調整装置がない場合には $75\text{m}^3/\text{m}^2\cdot\text{h}$)の換気能力が求められる。

さらに厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の見解(2020年3月9日および19日公表)として推奨される換気方法として「ビル衛生管理法(建築物における衛生的環

境の確保に関する法律)」における空気環境の調整に関する基準に適合していれば、必要換気量($30\text{m}^3/\text{h}\cdot\text{人}$)を満たすことになり、上記の「換気が悪い空間」には当たらないという見解を示している。この $30\text{m}^3/\text{h}\cdot\text{人}$ は、おおよその目安として客席の気積(体積)が比較的大きい音楽堂施設で $10\text{m}^3/\text{h}\cdot\text{人}$ 程度あることを考えると、一般的な劇場・音楽堂では1時間当たり3回以上の換気量が確保される。

ただし、上記の記載はあくまでも鑑賞する空間に求められる性能であり、ロビーやホワイエ、エントランススペースなどはその対象ではなく、外気に面した扉や窓などを開放することで同様に換気量を確保する対策を行うことが望ましい。

その他の施設維持管理対策としては、飛沫感染が懸念される洋便器の蓋設置による洗浄励行やハンドドライヤーの使用中止、また、日常清掃に加えた除菌清掃として客席および通路手摺、扉ハンドル、化粧室の洗面台やパウダーコーナーカウンター、エスカレーター手摺・エレベーター階ボタン、ロッカー扉、楽屋化粧前や扉ノブなど不特定多数の利用者が直接接触することで感染の懸念がある部位の対策が必要とされる。さらに喫煙所の閉鎖やごみ箱の撤去などの対策も行われている。

●施設運営

劇場・音楽堂では、施設インフラとしての対策が難しい「密集」「密接」については、管理運営の対策として以下のようなことが実施されている。

①諸室運用

【ロビー・ホワイエ】

観客や施設利用者の入口になることから、開場時間前倒しによる分散入場、検温や体調管理シートの提出義務付け、消毒、除菌マットの設置、マスク着用の義務化などに加えてキャッシュレス決済や電子チケットなどの導入を今後さらに進めることで、ウイルス等を持ち込ませない水際対策が求められる。

内部での感染対策として、観客相互の離隔を取ったセルフでのモギリやパンフレットピックアップ、スタッフのフェイスマスクや手袋着用などが励行され、バーカウンターなどサービスの停止が行われている。クラスター発生を想定した事後対策を迅速に行うため観客の緊急連絡先の届出、緊急

連絡先リスト化(保健所、自治体、消防、病院等)、対策マニュアル作成を行っている。また、これらの中で個人情報に関わるものの処分対策については徹底する必要がある。

【客席】

前述の換気量の確保に加え「密集」対策として、離隔着座(1席飛ばし、千鳥着座等)、飛沫感染対策として舞台との距離確保、客席内での会話を控える要請や掛け声を禁止する対策を行うとともに、終演時の分散退場が励行されている。

【稽古場・楽屋】

客席同様にウイルスを持ち込ませない予防措置として、出演者だけでなく制作や舞台技術関係者などにもPCR検査の実施が働きかけられている。また、密集・密接を避ける対策として稽古やリハーサル人数の制限、窓や扉を解放した換気対策、楽屋収容人数の制限、喫煙所の閉鎖、ケータリング・差し入れの禁止などの措置に加えて、稽古や楽屋入り前後の行動規範(飲酒や食事会の制限)を求める対策も行われている。さらに稽古やリハーサルの終了の除菌清掃に加えて、除菌ライトの使用などを行っている劇場・音楽堂もある。

②観客告知

事業の中止や延期、開演時間の変更に加えて、施設利用料金の返還や入場料金の払い戻しなど状況判断と判断結果の速やかな観客及び施設利用者への告知と説明が求められる。

③人員体制

除菌や問診票の提出、離隔を取っての入場制限、分散入場や退場のためには、平時を大きく上回る人的体制が求められる。当然、そのための経費負担が劇場経営の足かせになってきている。一方で閉館や公演中止による勤務者の制限(テレワーク等)、業務量減少による委託事業者や臨時職員の契約及び報酬額等の変更が課題となっている。

●劇場経営

感染症の水際対策のための経費負担が増大する一方、入場制限や公演中止、閉館要請、終演時間の制限などに伴う減収は目を覆いたくなる惨状で、劇場経営は極めて危険な状況にあるとあって過言ではない。以下には緊急事態宣言および経費負担増に起因する劇場経営課題の懸念事項を上げておいた。

①主催公演中止に伴うキャンセル料

業務委託契約で感染症等によるキャンセル料を明記しているケースは少ないと考えられるが、劇場・音楽堂の閉館に起因する公演中止は、その対象になる。また、広報実施経費や外国からの招聘公演では、大道具や衣裳の運搬代金などの処理が課題となる。

②利用料金制による指定管理者制度

施設利用料金収入の増収が指定管理者のインセンティブとなる経営手法であるため、実質的な施設利用を制限する閉館要請は、この制度の根幹に係ることであり要請と保証の両面からの対策が求められる。

③指定管理協定書における感染症対策のリスク分担

指定管理者協定書は、いわゆる業務委託契約書に相当するものであり、その中に示される「リスク分担」は、特別な事象が発生した場合の措置について取り決めを示している。ただし、感染症の措置は、具体的な発生前例が少ないことから、発生時毎に地方自治体と指定管理者の両者協議とされていることが少なくない。特に対策経費の増大や減収への措置が具体的に示されていないため初動の対策が打ちにくい状況にある。

④公益法人経営

公益法人会計では、平時の収支を想定した予算計画が立案されており、いわゆる内部留保は厳しく制限されている。そのため緊急的に想定外の経費負担に迫られた場合、独自財源では危機管理対策が難しい組織でもある。今後の危機管理対策課題として、一定の独自財源の確保を可能にするなどの対策検討が必要になる。

●その他

多くの課題が日々顕在化してきているが、以下に2つ検討すべき対策を示しておく。

①感染予防専門家との連携

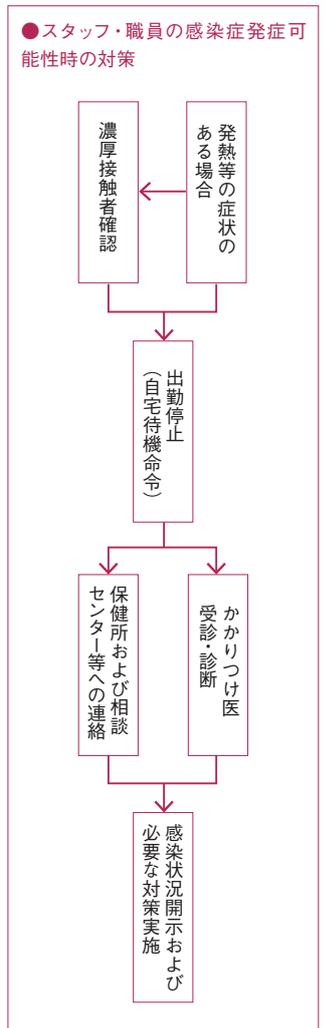
今後も劇場・音楽堂では、長期的な視点で感染症対策が求められることが想定される。そのためにも現状を把握し、個々の劇場・音楽堂の危機管理対策が適切に行われるための専門家(感染症対策部局や保健所、感染症医等)との連携が求められる。

②動画配信

閉館を余儀なくされていた期間、劇場・音楽堂から芸術文化情報を発信するツールとして動画配信が大きな役割を担ってきた。録画動画の配信だけでなく、ライブ配信や課金配信など様々な配信が試されてきている。今後も劇場・音楽堂の公演記録のアーカイブ構築と合わせて、動画配信をインフラとして検討していくことが考えられる。そのためには、IPネットワークや映像収録等への知識と技能を備えた専門家の登用も求められる。

●今後の劇場・音楽堂のあり方

劇場・音楽堂は、「時間」と「空間」を共有することを基本とする芸術文化施設である。そのことは有史以前からの劇場・音楽堂の歴史を振り返っても同様で、天然痘やペストといった未曾有の感染症を乗り越えて今の劇場・音楽堂の形がある。そのことから考えても、今後劇場・音楽堂が新たな形態に変異することはないと考える。むしろ、今まで以上にさらに快適で安全な劇場・音楽堂空間として進化していくと考える。



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

石川県金沢市

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音 楽祭2021



上：『左手のための協奏曲』（大阪フィルハーモニー交響楽団、指揮：秋山和慶、ピアノ：児嶋顕一郎）

下：能舞『アルルの女』

写真提供：石川県音楽文化振興事業団

● いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2021

【主催】いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭実行委員会、石川県、金沢市

【会期】2021年4月28日～5月5日（有料・本公演：5月3日～5日）

【会場】石川県立音楽堂、北國新聞赤羽ホールほか

*1 ラ・フォル・ジュルネ金沢

1995年にフランス・ナントで芸術監督ルネ・マルタンが発案した音楽祭ラ・フォル・ジュルネは2005年より東京で開催され、金沢では08年から16年までの9年間開催された。〔次で10回目なのであと1年続ければどうかという意見もあったが、クラシック音楽の作曲家には交響曲を第9番まで完成させると死んでしまうというジンクスがあるように9回目を一区切りとして、10年目を迎えるタイミングで地元で根差した新しい音楽祭を立ち上げることにした（山田さん）

*2 ガルガン・アンサンブル

OEKの元メンバーや普段海外で活躍している金沢出身の音楽家、地元で活躍中の音楽家たちが集まり、新しく結成された楽都音楽祭オリジナルの小さな管弦楽団。山田さんは「今年から“ガルガン・アンサンブル”と名付けたが、演奏の評判も良く、来年以降に繋がる大きな収穫があった」と手応えを語った。

1都3県に3回目の緊急事態宣言が発令され、昨年に引き続き外出自粛が呼びかけられたゴールデンウィーク。石川県独自の感染まん延特別警報が発令される中、今年で5回目を迎える「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2021」が万全の感染対策を講じて開催に漕ぎ着けた。

取材に訪れた5月3日から5日は金沢駅前にある石川県立音楽堂のコンサートホールと邦楽ホール、交流ホールの3会場で毎日朝10時から夜8時まで今年のテーマ「南欧の風」に関わるイタリア・スペイン・フランスの音楽を中心とする演奏会が行われていた。1つのコンサートは50分間休憩なしが基本で、交流ホールではジュニアオーケストラやフラメンコなども行われ、その様子を廊下ののぞき窓から見ることできる。サーモグラフィが設置された正面玄関は入口専用となり、市民ボランティアが、入退場する観客同士が密にならないように誘導。事前に来場者が特定できない野外公演はやむを得ず中止としたが、期間中に行われた全112公演には延べ2万人超が来場した。

楽都音楽祭は2016年まで開催されていた「ラ・フォル・ジュルネ金沢」^{(*)1}を衣替える形で17年から金沢独自の音楽祭として再出発したものだ。18年からは「左手のピアニストの為の公開オーディション」をスタートさせ、19年に最優秀賞を受賞した児嶋顕一郎は昨年の音楽祭でラヴェル作曲『左手のための協奏曲』を演奏するはずだった。コロナ禍で延期になり、今回、満を持して大阪フィルハーモニー交響楽団との共演を果たした。管楽器奏者以外は全員マスク着用で演奏する圧倒的な“大フィルサウンド”を背景に、29歳の児嶋が力強いタッチで若さに溢れた演奏を披露すると、観客は配布された「ブラボーうちわ」を振り、万雷の拍手を送った。

客席には親子連れも多く、曲間の転換時間を利用して楽都音楽祭の実行委員会会長を務める池辺晋一郎ら司会者が聴きどころを親しみやすく説明するなど、客席にクラシック音楽特有の堅苦しい雰囲気はない。このほか、コンサートホールでは兵庫芸術文化センター管弦楽団やレジデント・オーケストラのオーケストラ・ア

ンサンブル金沢(OEK)が次々に登場し、総勢12名のソリストがオペラの名曲アリアを歌いつなぐ「オペラ・アリア紅白歌合戦!」も企画されるなど、贅沢なプログラムが並んだ。

邦楽ホールでは「左手のピアニストの為の公開オーディション」で審査委員長を務める舘野泉と優秀賞および特別賞を受賞した3名のピアニストによる「片手のピアノコンサート」や、20人編成のガルガン・アンサンブル^{(*)2}と能舞・モダンバレエがコラボレーションする『アルルの女』など、洋楽と邦楽両方の公演を展開する石川県立音楽堂ならではの好企画も行われた。

1988年のOEK設立以来30年以上にわたり地域に根ざした音楽事業を仕掛ける総合プロデューサーの山田正幸さんは次のように話す。

「北陸3県で良い演奏を聴ける環境をつくりたいという思いで活動を続けてきた。金沢の音楽祭では名曲ばかりやっていると批判されることもあるが、テレビやYouTubeで聴いたことのあるクラシック音楽を生生の演奏で聴いてもらうことが何より大事だと思っている。楽都音楽祭はその年のテーマに関連する海外オーケストラを独自に招聘することを基本路線にしている。南欧がテーマの今年にはイタリアからヴェルディ交響楽団を招聘する計画だったが、昨年に引き続きコロナ禍で叶わなかった。ラ・フォル・ジュルネ時代には“日本”に呼ばれる意識で来日していた音楽家たちが、今では“金沢”に呼ばれる意識で来てくれるようになった。『左手のピアニストの為の公開オーディション』は当初オリパラの文化プログラムを睨んで始めたが、スポーツと同様に片手の演奏者を特別視することのない取り組みとして続けていきたい。ブラボーのかけ声を掛けられない状況ではあるが、観客の皆さんは集中して演奏を聴いてくれ、静かに盛り上がっているように感じた」

音楽祭が終わった直後の5月9日、石川県は県独自の「石川緊急事態宣言」を発出し、5月中に予定されていたコンサートも延期された。山田さんも「際どいタイミングでよく実施できた」と振り返るが、僥倖に巡り会わずとも音楽祭を開催できる日常の到来が待ち望まれる。（横堀応彦）